



投資環境

2026年5月28日

AI・半導体株の動向

投資レポート「注目のAI・半導体株とは？」(5月25日に公表)では、AI・半導体関連株の全体の構図についてまとめました。今回は、AI・半導体関連株のセクターごとの株価動向を整理し、とくに上昇が顕著なメモリー関連株の動向について詳しくまとめたいと思います。

□ AI・半導体関連株の動向

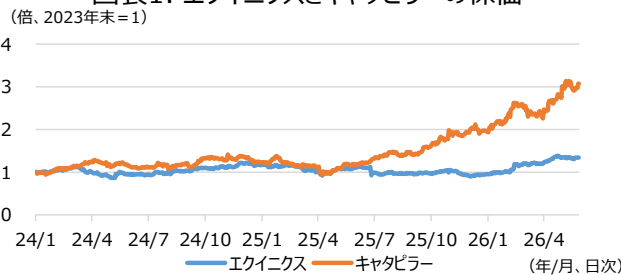
まず、データセンターに関わる企業の株価をみていきます。施設の運営・提供を担うエクイニクスやデータセンター内で使われる発電装置を製造するキャタピラーなど幅広い企業の株価が上昇しています(図表1)。とくに、最近の株価上昇が顕著なのは、光ケーブルを製造する米コーニングや日本のフジクラです。AIの普及により、高速で大容量のデータをやり取りできる高性能の光ケーブルの需要が高まっています。このため、データセンターのなかでサーバー同士をつなぐ際に利用される光ケーブルを主に製造するコーニングや、データセンター同士をつなぐ光ファイバーを主に製造するフジクラの株価は大きく上昇しています(図表2)。

次に、AI向け半導体チップに関わる企業の株価をみていきます。画像処理装置(GPU)の設計を手掛けるエヌビディアやAMDの株価が大きく上昇しているほか、足元では高性能メモリーを製造するマイクロンなどの株価上昇が際立っています(図表3、4)。後述するように、メモリー価格高騰を受けてメモリーを製造する企業の業績が大きく改善していることが、株価を押し上げています。

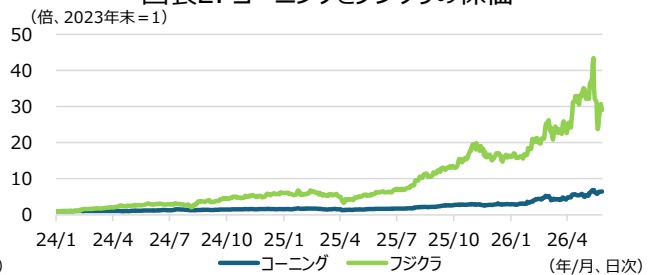
最後に、半導体チップを作成する際に必要な半導体製造装置メーカーや材料メーカーの株価をみていきます。国内の代表的な企業である東京エレクトロンや信越化学工業の株価は上昇はしているものの、メモリー関連企業と比較すると、上昇率は限定的です(図表5)。

このように、AI・半導体関連株は全体的に堅調な動きとなっておりますが、足元は特に半導体チップに関わるメモリー関連企業の上昇が顕著になってきています。半導体メモリーを製造する企業の株価は、上述したマイクロンなどに加えて、日本のキオクシアホールディングスも急上昇しています(図表6)。そこで、以下ではメモリー関連企業の動向について詳しく整理したいと思います。

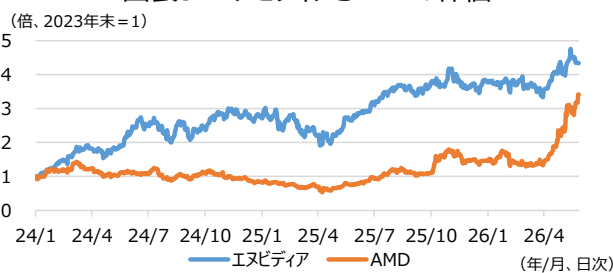
図表1. エクイニクスとキャタピラーの株価



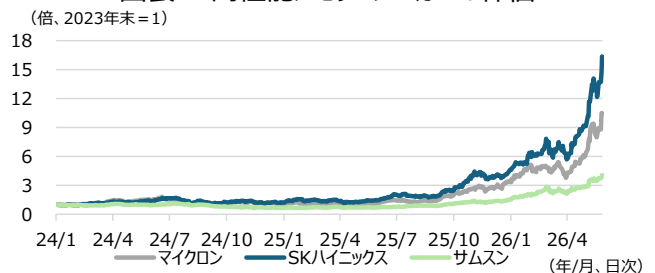
図表2. コーニングとフジクラの株価



図表3. エヌビディアとAMDの株価



図表4. 高性能メモリーメーカーの株価



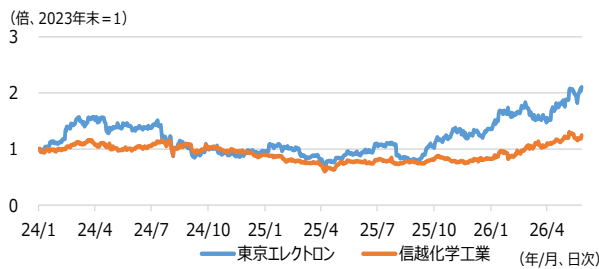


しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号

Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www. skam. co. jp](https://www.skam.co.jp)

図表5. 東京エレクトロンと信越化学工業の株価



(注) データは24年初～26年5月26日まで

(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

図表6. キオクシアホールディングスの株価



(注) データは25年初～26年5月26日まで

(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

□ メモリー価格の高騰を背景に、メモリー企業の業績は拡大

まず、マイクロンなどが製造する高性能メモリーについて改めて整理したいと思います。近年のAIの急速な普及と性能向上にともない、その処理を支える計算量は爆発的に増大しています。これに対応するため、大量の情報を高速でGPUに転送する機能の重要性が高まっており、その中核を担っているのが「広帯域メモリー(HBM)」です。HBMとは、データを一時的に保存するDRAM(ディーラム)チップをビルのように垂直に複数個積み上げた特殊なメモリーです。HBMは製造工程が極めて複雑であるため、現在は米国のマイクロン、韓国のSKハイニックス、サムスン電子、の3社による事実上の寡占市場となっています。また、この生産難易度の高さから、需要が急増しても短期間での増産が難しく、もともと価格が高騰しやすい構造にありました。

そうした中、足元のAI進化による計算量のさらなる増大が、より高性能なHBMへの需要を急拡大させました。結果として需給バランスが大きく逼迫し、HBMの価格は急騰しました。この恩恵を受ける形でHBMを製造する3社の直近四半期の業績は、マイクロンの純利益が前年同期比約9倍となったほか、SKハイニックスの純利益が同約5倍、サムスンの半導体部門の営業利益が同約50倍と、異例の好決算を記録しました。このような業績の急拡大が、株価急騰の背景です。

HBMの需要拡大を受けて、上記の3社はHBMの増産を優先し、パソコンやスマートフォンなどに利用されるその他のメモリーの増産が後回しにされ、メモリー市場全体の需給がひっ迫しています。それにより、半導体メモリー全体の価格が高騰し、メモリー関連企業全体の業績改善につながっています。直近決算を発表した日本のキオクシアホールディングスは、HBMを製造する企業ではありませんが、メモリー市況の高騰が追い風となり、4～6月期の純利益が同約48倍になるとの見通しを示しました。同社が強みを持つ、データを長期間保存する役割を担うNAND(ナンド)型フラッシュメモリーに対する需要の急増も業績の追い風となる見込みです。

メモリー各社の株価上昇は急ピッチであるため、今後一時的に利益確定売りに押される場面が想定されます。ただし、AIの普及や性能向上を背景に、高性能の半導体メモリーに対する需要は拡大することが見込まれるため、メモリー各社の株価は中長期的には底堅い動きになることが期待されます。

(参考)

「注目のAI・半導体株とは？」

https://www.skam.co.jp/report_column/pdf/2292/kankyo_20260525.pdf

(ストラテジスト 澤村一樹)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号

Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会

〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www. skam. co. jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。